

平成24年度 第1回函館市まちづくり会議 会議概要

○日 時 平成24年10月23日(火) 18:30～20:30

○場 所 市役所本庁舎8階大会議室

○出席状況 委員19名中 17名出席

(敬称略)

	区分	氏名	所属等
女性委員	団体推薦	藤澤 晴枝	函館消費者協会
		入江 真弓	CAP・みなみ北海道
		折谷久美子	みなとまちづくり女性ネットワーク函館
		森木 妙子	函館市ボランティア連絡協議会
		谷藤ミチヨ	公益社団法人函館法人会女性部会
	一般公募	吉川 瑞姫	
		銭谷 加奈	
		石山 智恵	
		伊藤 結	
若者委員	団体推薦	(欠席) 中山 治	函館青色申告会青年部
		川崎 啓太	一般社団法人北海道中小企業家同友会函館支部
		(欠席) 菊地 優	北海道大学
		永松 菜実	ロシア連邦総合大学函館校
		前川 未来	財団法人北海道国際交流センター
	一般公募	高田 凱也	
		佐々木杏菜	
		工藤 優太	
		横山 喬人	
		家地 敦子	

市側出席者 工藤市長 事務局／谷口企画部長，小林計画推進室長，
田畑計画調整課長，柳谷主査，川口主査

傍聴者 1名

○会議内容

1 開 会 (司会進行 田畑計画調整課長)

2 委員および事務局紹介

事務局 | ・委員名簿等により各委員，事務局を紹介

3 まちづくり会議について

事務局 | ・会議設置の趣旨，スケジュールの概要説明

4 市長挨拶

市長 | 委員にご応募いただきありがとうございます。皆さん，緊張した面持ちに見受けられますが，どうぞ気を楽に明るくやっていただければと思います。

昨年，選任された1期生の女性と若者の方々に1年間活動いただき，様々な意見をいただきました。

皆さんにもこれから委員として日頃感じられているまちづくりへの思いや考えを是非，会議の中でご提案いただきたいと思います。

昨年の4月に市長に就任しまして，函館の再生を念頭に置きながら改革と挑戦をしてまいりました。

現在は，大間原発担当市長のようになってますが，もちろんそれをやるために市長になったわけではありませんから，基本的なまちづくりをしっかりと進めていかなければと強く思っています。

私は，まちづくりの変化が目に見えるには3年くらいかかると思っております。色々な準備が必要です。それまで市民の皆様は何も変わらないということにならないよう，グルメサーカスやハーフマラソンなど，イベントに対しても前より力を入れています。そのうえで，将来の発展につながるまちづくりをしているところです。

東日本大震災，原発事故の前から日本の経済社会は人口減少，高齢化により経済力が総体的に低下していました。このような

国内状況と同様に函館も50年以上前に斜陽都市と呼ばれておりますが、以前は今より人口も多く元気でした。駅前にも人がたくさんいました。ところが今は、毎年、人口は3,000人減っており、平成22年の国勢調査では平成17年に比べ1万5千人の減でした。日本で一番減少したのは北九州市で1万6千人となっており、函館はワースト2位でした。北九州は100万都市で1万6千人、函館は30万を切る人口で1万5千人の減少。人口減少でいえば実質的に日本で一番衰退したまち、これが現実です。戦後の日本は、欧米をモデルとしてきました。しかしながら、これほど早いペースで進む人口減少や高齢化に対応するモデルは、世界のどの国にもありません。この国をどうするか自ら考えていかななくてはなりません。国も将来像を示せていません。地方自治体もそうです。だから国民は、若者は不安感や閉塞感を持っている。国からのお金を当てにしている自治体は、独り立ちしていないだけにビジョンを描くのは難しい。しかし、函館に住んでいる以上は、このまちをどうするかということに挑戦していかなくてはならないと思っています。年金や医療、介護などの福祉の大きな仕組みは、国でなくては解決できません。一番不安に思っているところはそういった分野です。そこが示されていないわけです。一方で新興国の台頭により、国内で雇用される方の賃金は下がり、経済は伸びないため、生活苦やワーキングプアの問題がある。日本は戦後の登り坂から、今、下り坂にあります。その中で、国は、函館はどうやっていくか、考えなければならない。この下り坂をただ歩くのではなく、今までとは違う下山の仕方、国づくり、まちづくりのやり方が必要です。そして、まちづくりは市民の力で出来るのです。ただ、ここ50年もの間、坂を下ってきたまちを立て直すには、これまでのやり方ではだめだということです。新しい発想を生み出すことが求められている。これまでは男性を中心に物事が決められてきました。これからは、行政に参加する機会があまりなかった女性の力、また、将来、希望の時代を自分たちで作っていく若者の力が、まちづくりに必要でありますので、この会議を作ったところです。他にも美しいまちづくり検討会、財政再建推進会議などの市民の参加を求める会議を立ち上げました。まちづくりは、私だけ、市役所の間人だけであるのではなく、市民の熱意や行動力を結集しなければ成り立

たなくなってきました。一部の人間の考え方に任せて後についていくのでは良い国，良いまちになりません。市民自体がただ意見を聞くという段階を越えて，皆さんで参加する，自分たちでまちを作るという意識を持っていただくことが必要であり，まずはこの会議に参加していただき，思いを発言してもらい，話し合う中で，このまちをどうしていくのかを考えて欲しいと思っています。委員の皆さんには，お忙しいところ長丁場となり，また夜間の会議であります，私の思いを少しでも汲んでいただき，この素晴らしいまちを希望あふれる次世代に引き継いでいくためにもご協力をお願い申し上げます。

よろしく願いいたします。

5 市長との懇談

伊藤委員

教育大で地域福祉を学んでいます。この会議では，認知症高齢者の地域での支え方について話し合いたいと思っています。学外では万代町のサロン活動に参加しており，地域住民の活動を目にし，その活発さに驚いています。小さな地域のこのような活動が全市的に広がって欲しいと思ったことも，今回，まちづくり会議に参加した理由の一つですが，高齢者関係以外にも経済，観光についても勉強していきたいと思っています。

市長

「認知症の人を支える会」があります。総合福祉センターで活動しているのですが，お話をすると家族を支える人たちの気持ちがよくわかる。昔は大家族で交代で看たりできたけれども，今は，小家族化で一人にかかる介護の負担が非常に大きくなってしまふ。施設に入所するにも待機者が多い。国の方針は，なるべく自宅で看なさいというものだが，私は今の家族制度では無理だと反発しています。現在，日吉町に福祉コミュニティエリアを作ることを検討しています。

石山委員

西部地区に在住の二児の母です。10年ほど前に東北より移住してきました。海や山，温暖な気候に憧れてのことでしたが，なにより異国情緒あふれる町並みは飽きることはありません。とはいえ，不便，不満に思うこともあり，まちづくり会議の中

では、一母親として移住者として、子ども達が安心して暮らせるまちづくり、誰もが幸せに暮らせるまちづくりを目指して建設的な提案をしていけたらと思っています。

市長

外から来た人の眼は非常に大事です。函館生まれの函館育ちという人も愛着を持ってこのまちを見てくれますが、それとはまた違う観点で良さも欠点も見てもらえる。満足していないところもあるというお話でしたが、このまちはこれでいい、このままでいいと満足してしまっただけではいけないと思います。美しいまちならばもっと美しいまちにしていかなければならない。植樹マスに雑草が生えていたり、道路にゴミがあったり。皆さんが本当に思い描く美しいまちにしていかなければ滞在型観光につながっていきません。皆さんの感性を生かしたまちづくりをしていきましょう。

入江委員

子どもへの暴力防止プログラムを提供する団体、CAPみなみ北海道からの推薦で委員をしています。道南の小学校へ出向き、ワークショップを行う活動をしており、このプログラム提供の効果としては、予防教育はじめ、子どもたちが暴力を受けている環境に気づき、ケアにつながるということがあるので、市内の全小学生に是非受けてもらいたいと思っています。また、日本語教師をしているので、留学生にとっても良いまちであって欲しいと思っています。

市長

以前、市長のタウンミーティングで、CAPのプログラム実施の予算化についてお話をいただきましたね。

入江委員

私どもでは小学3年生全員が受けた場合、300万円と試算してお願いしました。また、4月に新聞報道された性暴力の問題は、表面化しづらいということもあり、CAPのワークショップは性暴力の気づきを促すという点でも有効だと考えています。

市長

いじめの問題も含め子どもたちの健全な成長について理解をってもらう一つの手段として子ども条例の制定を進めています。CAPの皆さんは、具体的な取り組みの第一人者であり、これ

からも、子どもたちの健全育成のため、ご協力いただきたい。

折谷委員

みなとまちづくり女性ネットワークは、女性ならではの気づきや視点を、大好きな函館のまちづくりに反映させようと平成15年に発足いたしました。年1回のボートウォッチングのほか、テーマを決めての勉強やイカマイスターの資格を持つものが小学校に出向き、イカめしやイカの生態などを教える活動をしています。私がまちづくり活動を始めた頃は、会議に出席しますと、男性ばかりで女性は私1人という状況でした。このまちづくり会議は、女性、また、若い方が大勢いらっしゃるの、皆さんの意見を聞くのを楽しみにしています。

市長

おっしゃるように、これだけ多くの女性や若者が委員をしている会議というのは市役所始まって以来です。今日は表情もまだ硬いようですが、知り合えば色々とお話しも進むと思います。是非楽しみながらやっていただきたい。

銭谷委員

私が希望するテーマとして提出したのが「ゆるキャランドの招致」です。まんべくんが話題となったことや、先日のグルメサーカスの集客を見て、ご当地キャラクターの魅力と地域の食の魅力を融合したイベントができないかと考えています。例えばみうらじゅん氏のシンポジウムなどで興味を持ってもらいながら、函館では何か楽しいことをいつもやっているという提案をしていきたい。我が子も進学で札幌へ行くことになっているが、若者たちが函館に留まるような楽しいまちづくりをしたい。

市長

若い人の就職の場がないために出て行ってしまう。経済をなんとかしたいと考えています。卒業後、働ける企業を用意しなくてはならない。また、ご当地キャラクターのお話がありましたが、今年の港まつりでは400万円でミッキーと仲間たちをパレードに招致しました。港まつりもグルメサーカスも大変な人手があり成功しましたので観光コンベンション部では次の開催にプレッシャーがかかっています。良いご提案をお願いします。

谷藤委員

法人会女性部会よりまいりました。主な活動は子どもたちの税に関する絵はがきコンクールの開催を行っており、今年で3回目ですが、この間、全国入賞を果たすなど、年々、子どもたちの税に関する興味の高まり、意識の変化が感じられます。また、世界三大夜景に長崎が選ばれた日、長崎に滞在していたので夜景見学をいたしました。長崎の人口は、約45万人と函館より多いだけに灯りも多いのですが、扇形に広がる夜景の形などをとつてもやはり函館の方が美しいと感じました。函館には伝統的な建物がたくさんあり、それらを守り発展させていくことも大事なテーマであると考えています。

市長

香港のギンギラギンの夜景、東京タワーからの夜景など、夜景にも色々あり、好みがあるようです。ナポリに行った時は、函館の夜景の方が素晴らしいと思いました。「函館は世界三大夜景のレベルを突き抜けて、会社でいうところの顧問格」であると、先日ある会合で話したところです。ミシュランの星も、函館は3つで長崎は2つだったと思いますが、夜景だけの観光ではなく、様々なものを磨いてまちに魅力を付加し、滞在してもらうことが必要だと考えています。私はガーデンシティといっていますが、公園の中にまちがあるような、函館のまち全体が公園のようなイメージでまちづくりをしたいと考えています。

藤澤委員

函館消費者協会では、賢い消費者になって、お年寄りを悪徳商法から守ろうと出前講座を行っています。地域で一人ひとりが顔を合わせて会話をすることが、被害を防ぐために大切なことだと思います。煩わしいと思われがちな回覧板も、手渡すことで、いつもはタタッと玄関先まで来ているおばあちゃんが今日は足を引きずっていたなど、体調がわかることがあります。心配事でもあるの？と聞いてみたら高いふとんを買ってしまったという話になったり。顔を合わせて話をすることによって周りが気づく。人口減や少子化の影響で、学校の統廃合のお話も聞かれます。地域から学校がなくなることは残念なことです。まとまった人数でなければできない野球やバレーボールなど団体競技もあるので、一定程度の規模を確保していくのは、教育上必要なことだと思います。

また、えほんふれあい事業が廃止検討の判定を受けたようで

すが、立ち上げ時に私が所属する読み聞かせボランティア団体が参加依頼を受け、一歩を踏み出した事業でした。今後、活動が広がっていくと思われていただけに残念です。

市長

私たちが子どもの頃は6千人の子どもが生まれていましたが、今は2千人を切っています。当時、私の中学校では1学年14クラスありました。1クラス50人学級でマンモス校といわれていたので隔世の感があります。スポーツなどの部活動をすると同じクラスの付き合いだけでなく、先輩後輩との関係性など幅が広がります。色々な付き合いがあった方がいいと思っており、駒場小学校と八幡小学校にアフタースクールを開設しました。今後もそのような場を提供していきたいと考えています。

森木委員

ボランティア連絡協議会からまいりました。年間の3分の1は函館におりません。15年前に息子に「年をとったらこんなまちに住みなさい。」と呼び寄せられ、夫婦で移住いたしました。来てみたらなるほど空気はきれい、食べ物は美味しい、雪はちょっと辛いですが終の棲家になりそうです。若者が出て行くのは、ここで働いて家庭を作っていく自信がないからではないでしょうか。また、お年寄りが一人住まいで寂しい思いをしている。そのような状況が解決されたらと考えます。

私は合唱団の活動をしており、年間20回ほど出前コンサートを行っています。私たちの歌を喜んでいただいております、心を癒すボランティアを通して人とのつながりを強く感じるこの頃です。若い方とお年寄りのコラボレーションで何かひとつでも新しいことが実現されたらと考えております。

市長

函館は高齢化率28%と全国・全道平均を上回っています。これが7～8年のうちに35%になる予測で、3人に1人はお年寄りとなります。子どもが出て行き、一人住まいをしている高齢者のケアについては、今後大きな課題となっていくと思います。

また、就職先が思うようなところがない。観光・食品加工などが多いのですが、これらはどちらかといえば、男性よりも女性の雇用が多い職場です。

男性、特に若者の雇用の場が少ないのが函館の弱点なので、

この部分を強化していかなければと思っています。これという解決策は難しく、経済を良くする取り組みやまちづくりを地道にやっていくしかないと考えています。

吉川委員

今まで暮らしてきて気づいたことや、これからの函館をもっと良くするために必要なことについて、まちづくり会議で発言していきたいと思います。

市長

会議の中で、女性委員、若者委員から様々なご意見があると思います。皆さん、仲良く色々なことを学んでください。

家地委員

地域福祉の勉強をしています。夏休みに地域包括支援センターで1か月実習した際、高齢者宅への同行訪問がありました。団地にお風呂がなく、近くの銭湯も廃業したりで、高齢者の入浴に関するニーズがあることを知りました。まちづくり会議では、地域で当たり前の生活をするためには、どうすればいいのかなどを話し合いたいと思い参加しました。

市長

福祉はこれからの分野ですし、人材も多く求められています。また、介護など時間的拘束のある大変な現場ですから、報われる所得となるように賃金を上げていかないといけません。

銭湯がなくなり、代わって大型の温泉施設などができましたが若い人たちは車で行けても高齢者には行きにくい。五稜郭団地の銭湯問題は、市で入浴設備を設置し、それを自主管理するという解決方法をとりました。研究してみたいと思います。

川崎委員

中小企業家同友会の推薦でまいりました。地域振興について、実際に何か一緒に取り組めたらと考えています。コワーキング活動の中で、少子高齢化対策、一人当たりの生産性をあげることによる、税収増を通じた社会福祉への貢献なども考えています。

また、昔、食べられていたザリージ、豚肉の唐揚げを、道南パーク、道南の豚食文化として地域ブランドにしていく戦略を企画しています。

市長には、是非、函館の5年後10年後のビジョンを可能であれば動画で見せていただきたい。それを市民全体で共有し、一緒にまちづくりをしていきたいと考えています。

市長

是非、日頃の思いをご発言ください。住民が自ら考えていることを実現していくのがまちづくりの面白いところです。職員には、どんな部署にいてもまちづくりができることを一貫して言っています。一つでも実現につながる過程を味わっていただければと思います。今の私の92の政策では直ぐに取り組めるもの、中長期かかるものがあります。私の考えているガーデンシティは20年ほどかかると考えておりますし、また、50年もだめだった経済を4、5年で再生するというのも厳しい。そういう意味では、5年後10年後をビジョンとして表せたら良いが、なかなか難しい。市では、10年間の総合計画を策定しているが、次期計画では総花的なものは要らないと言っています。函館のイメージ全てをビジョン化するのは無理だろうと。戦略的に絞った状態で示すなど市民に理解を得られるような計画を作っていきたい。

工藤委員

夜景もきれいで、食べ物も美味しく良いまちですが、若者の函館離れは問題です。現に、私の住む西部地区でもお年寄りが目立っており、若者が出ていくのは、単に函館より魅力的なところがあるからですが、友人も、函館には出かける場所、遊ぶ場所がないと言っているのです。若者の目線から、もっと函館を好きになってもらうにはどうすれば良いかを会議で考えたり話し合えたらと思っています。

市長

函館は子どもと若者の居場所がないと感じています。そこで、五稜郭地区には若者をはじめ、文化芸術、起業家、コワーキングなどに携わる人たちが集えるような場所を提供していきたいと考えています。この会議で、どんな場があると良いかなどについて、若者の意見を聞きたいと思っています。五稜郭地区を若者の拠点にしたいと考えています。

佐々木委員

まちづくりに以前から興味を持っておりましたが、今回このような機会を得て、食の観点から函館の活性化につながる意見を出していけたらと考えています。一年間よろしく願いいたします。

市長

函館観光の三大要素は夜景・異国情緒・食であり、大切にしたいと思っています。接遇をもっと丁寧にする、食材は地

元のものを使うなど。B級グルメのまちにしたくない。A級グルメで、ミシュランの星がいくつも付くようなまちにしたい。スペインの人口18万人の小さなまちサン・セバスチャンは、世界一のグルメのまちで、レストランは観光客で満席、食で成功しています。地場製品の可能性を追及するべきだと感じています。

高田委員

児童福祉について勉強しています。進学で来函し半年になりますが、函館の良い面を伸ばしていくお話をしていきたいと思っています。出身である八戸市はB-1グランプリに出場しており、せんべい汁は金賞を受賞しました。自身も八戸せんべい汁研究会に所属しています。若い人が出ていくのは、遊ぶところがない、雇用がないことが問題といわれていることから、キャリア教育の活発化やNPO法人への就職支援など環境を整える政策について話していけたらと思っています。

市長

住んでみての印象はいかがですか。

高田委員

路面電車が異国情緒あふれる町並みと一体化しているところは函館観光の強みですが、実際に生活していると公共交通機関のアクセスに不便を感じます。

市長

市電も以前は路線が多かったのですが、赤字などで廃止されてきた経過があります。今考えると観光面でも残しておいた方が良かったと残念に思います。青森市、弘前市と新幹線の開通を見据えた観光面での提携をしていこうということで、台湾などへのプロモーションを行いました。八戸市長も参加の意向があるようで、今後は連携していく予定です。七飯町も一緒にやりたいとの話があり、道南と東北に輪を広げていきたいと考えています。

永松委員

極東大学でロシア語を勉強しています。函館に来る前と来た後で、きれいなまちという印象は変わりませんが、高齢者が多い点と大学前の歩道が狭くデコボコしている点が気になりました。防災対策の観点から、このような現状について会議でお話をしていけたらと考えています。

市長

ロシアは面白い国ですね。私も直近では永久凍土のまち、ヤクーツクへ、その他モスクワ、サハリン、ウラジオストクなどに行きました。大学付近の歩道は舗装道路と石畳の箇所がありますが確かに狭いところもあると思います。担当部局にも伝え検討していきたい。

前川委員

北海道国際交流センターから来ました。進学や就職を通じて、自分のテーマとしていたのが「夢をあきらめるまちから叶えるまちへ」ということです。函館はイベントが多いのですが、限られた人しか集まらない。その理由として、余裕がないということ、コミュニティカフェの活動を通じて理解しました。若者は人間関係や仕事上の様々な問題を抱えています。そのような心状態では、美しい花に目を向けたり、イベントに参加する気になれない。難しいことですが、そのマイナスの部分にアプローチしていく必要があると、最近とても思っています。

市長

私たちが若かった頃は、食べるのがやっとでしたが、日本が登り坂の経済成長にあり、夢と希望にあふれていた時代でした。年々良くなることを実感できた。今は、人間関係が希薄であったり、コミュニティが失われつつあったりすることにどのように対処していくか。単純に福祉や教育の問題ではなく、色々なことにつながっている複雑な問題です。明るい未来のためお互いに良い方法を考えていきましょう。

横山委員

まちづくり会議に参加した理由は二つあり、一つは高齢化社会で私たちにできることを話し合いたい、もう一つはまちづくりをする中で、障がい者にも光をあてて欲しいということです。

市長

一番なんとかかしたいと思っているのは、障がい児のご両親が元気なうちはいいのですが、支える人たちに何かあった後の障がい者に対するケアをきちんとできる施策をしたいということです。ユニバーサルデザインのまちづくりも進めたいと考えていますので、色々なご意見をお願いします。

皆さん、これから1年間よろしく願いいたします。

6 閉 会